

平成30年度 日本武道学会剣道専門分科会 研究会

術語 “budo” “bujutsu” について考える

- Donn. F. Draeger の著述・修行を手がかりとして -

panelist

Hunter B. Armstrong

(Director, International Hopology Society)

Phil Relnick

(Katori Shinto Ryu Shidosha Menkyo (USA), Jodo 7 Dan Kyoshi)

Liam Keeley

(Okuden mokuroku in Tatsumi ryu Hyoho)

commentator

酒井 利信 (筑波大学)

Alexander Bennett (関西大学)

coordinator

長尾 進 (明治大学)

平成 31 年

言語：日本語および英語 (通訳あり)

Donn. F. Draeger (1922-1982)

米国・ミルウォーキー生れ。少年期より、柔術・柔道に親しむ。1943年から1956年まで米国海軍に所属。その後日本に長期滞在し、天真正伝香取神道流や神道夢想流杖道をはじめ、多くの古流武術・現代武道の実践と研究を行い、免許もしくは高段位を得る。武術・武道に関する著作多数。Martial Arts and Ways of Japan (3部作) が代表作。martial arts に対して martial ways という概念を用いた。後年は東南アジアの武術に関心をひるめ、hopology (武器学) の基礎を築く。パネリスト3方は、いずれも日本での武術修行経験があり、Draeger をよく知る方々である。

3月23日

15:30 - 17:30

明治大学中野キャンパス
高層棟 307教室

※本研究会は、長尾進氏「術語 budo の意味内容・概念の研究：武道研究国際化における再定義と発信」(平成30年度科学研究費助成事業基盤C課題番号18K10941) との連動企画です。

<http://www.budo.ac/kendo/>